駿台甲府高等学校・中学校・小学校

卒業生から学ぶ「駿台魂」

駿台甲府中学校・高校（八田政久校長）、駿台甲府小学校（坂本宏行校長）は建学の精神「愛情教育」の下、生徒・児童の「チャレンジングスピリット」を育んでいる。駿高卒業生は各分野で活躍。脈々と流れる駿台魂を〝後輩〟に伝える取り組みが行われていて、在校生は目を輝かせている。また、駿高では大学受験に向け、母体となる駿台予備学校（本部・東京）と連携した学習支援体制を整えていて、成長段階に合わせ、知徳体を兼ね備えたたくましい人間教育に力を注いでいる。

立川談慶さんが講演

駿小 想像力の大切さ伝える

落語の魅力を通し、物事の考え方などを説く駿高2期生の立川談慶さん

駿小PTAはこのほど、駿高2期生で落語家の立川談慶師匠を講師に招き、文化講演会を開催。談慶さんのウィットに富んだ話に、児童たちは引き込まれていた。

◇

滑稽な噺の最後に「オチ」を付ける日本の伝統的話芸が「落語」。扇子と手拭いを小道具に、身振り手振りで噺を進め、一人何役も演じる。この日、うぐいす色の着物に黄色い羽織姿の談慶さんが笑顔で登場すると、1～3年生は一気に引き込まれた。

「落語で一番大切なのは『想像力』なんだよ。噺の中に登場人物はたくさんいるけど演じるのは一人。人の気持ちが分からないと演じ分けられない。つまり、人の気持ちを考えられる、思いやれるという力が必要ということ。聴き手も同じ。聴き手の想像力で噺の世界はどんどん広がっていくんだよ」と談慶さん。そして、「いじめ」を引き合いに、「『いじめ』は人の気持ちを想像する力がない人がやっちゃう。だから（想像力が求められる）落語の世界にいじめはないんだよ」と話した。

最初の演目は、長い名前がいじめの対象にもなりそうな「寿限無」。駿小では1年の授業で言葉遊びの一つとして覚えていて、演目を聞いた瞬間に児童たちから歓声が沸き起こった。

人間は失敗するもの

噺は、生まれた子どもに縁起のいい名前を付けたいと、父親がお寺の和尚さんに相談に行ったことから始まる。結局、付けた名前が長すぎて入学式の日に名前を呼んでいるうちに夏休みを迎えてしまったというオチがある。「長い名前をつけた親父はダメ親父。でも愛情あってのことで、落語は人間のダメな部分も認めてあげようというおおらかさがあります」と説いた。

続く演目「転失気」は、腹が痛い和尚さんが医者から聞かれた言葉を知らなかったのにもかかわらず知ったかぶって、後に恥ずかしい思いをした噺。談慶さんは「偉くなると知ったかぶってしまう人は多い。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』という言葉通りです。人間は昔から失敗を繰り返してきました。人間は失敗するもので、落語はそれを笑いに替えていろいろなことを教えてくれます」とも。噺を通し、「今日は『失敗は恥ずかしくない』という〝ワクチン〟をみんなにこっそり注射しました。失敗も笑い飛ばしてどんどんチャレンジしていきましょう」と呼び掛けた。

ダメな部分も笑いに

談慶さんの話芸に笑い転げた児童たちだったが、談慶さんの思いは浸透。3年女子は「失敗は恥ずかしいことだとずっと思ってきましたが、これからは笑い飛ばそうと思いました」、別の3年女子も「ダメな人も許し、面白い噺にしてしまう落語はすごい。私は失敗しては落ち込んでいましたがいい勉強になりました」と表情は明るい。同男子は「落語はもちろん、何事にも想像力が大切だと知りました」と話した。

会の終盤に、談慶さんに促され高座に上がり、「寿限無」の早口言葉にチャレンジした田中海音君（1年）は「1学期に覚えたばかり。みんなの前で話すのは緊張したけど、『カボチャと思えばいい』と言われ、楽しくできました」。早川真ノ介君（2年）は「緊張したけど、気分はよかったです。心に残ったのは知ったかぶりをするのは良くない、うそをつくと恥ずかしいということです。普段から分からないことは聞くようにしていますが、これからもそうしていきたいと思いました」と笑顔を見せた。

談慶さんの軽妙な語り口に笑顔を見せる駿小1～3年生（写真上）。「寿限無」の長い名前を言うために高座に上がった児童。「みんなはカボチャと思えばいいよ」と談慶さんに言われ、思わず笑みがこぼれた（同下）＝いずれも甲府・駿台今井キャンパス小体育館

駿中 OB経営会社で研修

グローバルな挑戦に刺激

アグリビジョンが先端技術を駆使してプチトマトを育てる広大な植物工場。説明に聞き入る生徒たち（写真右と上）＝ともに北杜・南アルプス農園。北杜市産の野菜などを使った料理がずらりと並ぶ（同下）＝北杜・白州べるがサラダボウルキッチン

駿中3年生は10月下旬、「秋の研修」として、駿高8期生の田中進さんが代表を務める農業生産法人「サラダボウル」などを初めて訪問。OBが情熱を傾ける取り組みを見学した。

「人を育てる人を育てたい」－。昨秋の駿中高文化講演会の講師として登壇し、そう語った田中さんの言葉が研修先として選ぶきっかけになった。保坂明子副校長は「文科省でも、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を目指し、大学や企業と連携しながら課題解決力などの育成を推進しています。まさにそれを体現している卒業生の力を借り、在校生たちが学びを深められる機会にしたいと考えました」と話す。

最先端農業を見学

この日、訪れたのはサラダボウルが三井物産（本社東京）と合併して設立した農業生産法人アグリビジョンが運営する「南アルプス農園」（北杜市）と、「白州べるが」で地元の食材を使っているレストラン「サラダボウルキッチン」など。

農園は南アルプス連峰を望む小高い丘にある広大なビニールハウス。国内最大級の太陽光利用型植物工場で、天候に左右されず、程よい酸味と甘みが特徴のミニトマト「スプラッシュ」を生産・出荷している。光や温度、湿度、水など植物の生育に必要な環境をコンピューターで制御するなど世界最先端の総合環境制御システムを導入している。

生徒たちは最初に案内された部屋でスプラッシュを味見。農園の概要に耳を傾けた後、工場内を見学。従来の一般的な畑とは程遠い、最先端農業に目を見張った。

一方、ランチに合わせて訪れたレストランでは、北杜産の野菜や米を使ったサラダやトマトカレーなどに舌鼓。スタッフの「普段、当たり前と思っていることが実は違うことも多い。感謝の心を忘れず、身近な〝良さ〟に気付き、知ろうとする努力をしてほしい」という言葉に、生徒たちは「野菜もお米もおいしく、当たり前と思って食べている食事でしたが、味が違って感じました」「地元の良さを考えるきっかけになりました」と声を弾ませた。

使いこなすのは人間

駿中では秋の研修に先立ち、8月に有志を募って田中さんが農業指導に当たるベトナムへの研修旅行も実施。これにも参加した坂本弥音さんは「『できないからやらないのではない。やらなければ何も始まらない』と文化講演会で田中さんが語った言葉が心に残っていました。今回の研修でもそうでしたが、最先端の機械は使っていても、それを設定し、使いこなすのは人間。同時に海外の人とスムーズなコミュニケーションを持つためにも語学力を一層高めるなど、さまざまなことを勉強していきたいと思いました」と話す。

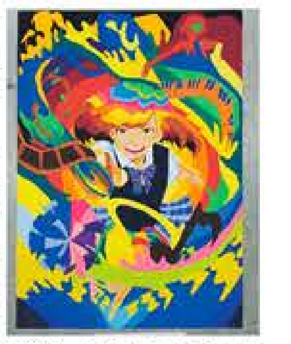
サラダボウルには、田中さんの考えや生き方に共感し、働くOBも。今年5月、周囲の反対を押し切り、地銀から転職した篠原純企さん(31)＝甲府市＝は駿高22期生。「共に働くようになって感じているのは駿台が校是とするチャレンジングスピリットを貫いているということ」という。「『新しい農業のカタチをつくる』というのが私たちのスローガンで、農業がこれからの時代をつくると考えています。まだ成功しているわけではなく、私たちの挑戦は続きます。今は激動の社会。将来に、さまざまな考え方があっていいと思いますが、駿台生には挑戦心を忘れず、新しいことにもチャレンジしていってほしいと思っています」とエールを送っていた。

駿高美デ科 高美連展ポスター 色鮮やかに勢いよく

デザイン画が「高美連展」のポスターに選ばれた青柳こころさん（写真上）。鮮やかなポスター（同右）＝甲府・駿高美術デザイン科今井キャンパス

明るく鮮やかな色彩と勢いのある絵が目を引くー。駿台甲府高美術デザイン科の青柳こころさん（2年）のデザイン画が、県内高校美術部生の作品が一堂に会す県高校美術部連盟主催の「高美連展」のポスターに採用された。青柳さんは「いろいろな人に見てもらえると思うと本当にうれしいです」と声を弾ませた。

心掛けたのは、高校生らしい勢いのあるはつらつとしたタッチとみずみずしさ。「色を混ぜすぎず、鮮やかな色味で表現しました」。駿高の制服を着た少女の周りを飾るのはフィルムやピアノ、音符、絵の具、ポンポンなど。写真部や吹奏楽部、演劇部、チアリーディング部など、さまざまな部活動を描いたという。



もともと絵を描くことが好きだったが、美デ科の体験入学をきっかけに御坂中から進学。「高校では何にでも挑戦してみようと思った」そうで、昨年12月には美デ科の生徒会長に立候補して当選。間もなく1年間の任期を終える。「充実した1年でした」と青柳さん。「周りの協力なくしてはできないことばかり。支えてくれる人たちがいることのありがたさ、大切さを実感しました。任期終了後は、支える側として全力を尽くし、美デ科を盛り立てていきたいと思っています」と笑顔を見せた。

駿高普通科 受験へ学習環境充実

センターマラソンや特別学習会

センター試験まで残り約60日。志望校合格を目指し、駿高3年生によるこの時季恒例で早朝に行う「センターマラソン」と放課後の「特別学習会」が熱を帯びている。受験は個々の挑戦だが、駿高では大学入試を〝団体戦〟と位置付けていて、学習会などで同じ空間を共有し、切磋琢磨しながらベストを尽くす。

駿高が大切にしているのは、生徒たちが夢をあきらめないで納得受験に臨める学習環境。生徒本位の「スチューデントファースト」だ。充実した授業や課外はもちろん、職員室も開放し、聞きたい時にいつでも聞ける環境を整えている。AO入試や公募推薦など入試方法が多様化する中、「個別指導が必要となる面接や小論文には1、2年の教師陣も含めて当たるなど全校挙げた支援体制をつくっています」と進路指導の小笠原理主任は胸を張る。

駿高にいながらにして駿台予備学校の実力派講師による講義を受講できる駿台サテネット21のオンデマンド講座（映像講座）を導入しているのも大きな強みとなる。2年時から有効に活用している女子は「考え方やポイントが分かりやすく苦手教科の克服に使っています。模試の点数も上がり心強い存在です」と笑顔を見せる。帰国子女の男子は「大学別の講座もあり、やりたい分野やレベルを選び、何度でも活用できることがありがたい。合格目指して頑張ります」と決意を新たにしていた。

駿台サテネット21で学ぶ3年生たち（写真上）。「特別学習」に臨む3年生がいる教室の明かりが夕闇に浮かび上がる
＝甲府・駿高塩部キャンパス

〈企画・制作〉山梨日日新聞社広告局

Challenging Spirit
SUN DAI KOFU
「オール駿台」で完全サポートします!!

高校普通科

11月19日(土)
9:15~、10:15~、11:15~
オープンキャンパス
※いずれも同一内容。
個別相談も承ります。

11月27日(日)
10:00~、14:00~
入試説明会
※両時間ともに同一内容。
個別相談も承ります。

高校美術デザイン科

11月27日(日)
9:20~
入試説明会
※個別相談も承ります。

12月24日(土)、25日(日)
2017年1月2日(月)~5日(木)
美術デザイン科展
(県立美術館県民ギャラリー)

中学校

専願入試
出願始まる!
【出願期間】
12月1日(木)~9日(金)
【試験日】
2017年1月7日(土)

小学校

一般入試
出願始まる!
【出願期間】
11月17日(木)~25日(金)
【試験日】
12月3日(土)

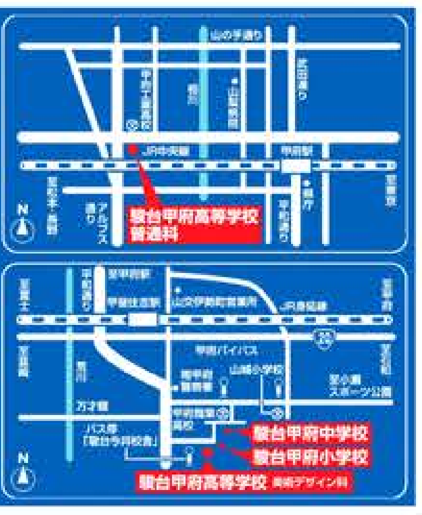
[塩部キャンパス] 〒400-0026 山梨県甲府市塩部2丁目8-1

■駿台甲府高等学校 普通科
TEL055-253-6211 FAX055-252-5395
http://www.sundai-kofu.ed.jp/high/

[今井キャンパス] 〒400-0845 山梨県甲府市上今井町884-1

■駿台甲府小学校
TEL055-244-0411 FAX055-220-2838
http://www.sundai-kofu.ed.jp/elementary/

■駿台甲府中学校
TEL055-243-5200 FAX055-243-5202
http://www.sundai-kofu.ed.jp/junior/

■駿台甲府高等学校 美術デザイン科
TEL055-241-5311 FAX055-241-8304
http://www.sundai-kofu.ed.jp/art/